

危険な人々

生涯の間、ダビデは危険な人々に囲まれていました。それらの人々の持っていた危険性は、皆同じようではありませんでしたが、ゴリヤテは肉体的に大きな脅威でしたが、短い間だけでした(1サム17)。しかしサウルは、長年の間ダビデを殺そうとしました(1サム18-26章)。ガテの王アキシュは、短い期間でしたが危険な同盟でした(1サム27,29章)。ヨアブはダビデの軍の将軍でしたが、自分の計画を持っていた、危険な存在でした。バテ・シェバはダビデにとって危険な誘惑となりましたが、その意味ではダビデ自身が危険だったとも言えるでしょう。2サム15,16章では、知恵のあるアヒトフェルがダビデを裏切り、アブシャロムと共に謀して王に齒向かいました。

下のリストにあげられている人々がどのくらい危険だったか、1~5までランクをつけましょう(5が最も危険)。誰が一番危険だったと思いますか？

ダビデにとって危険な人々	
アブシャロム:ダビデに反抗した息子	
アキシュ:ガテの王	
アヒトフェル:知恵者、裏切り者	
バテ・シェバ:ウリヤの妻	
ゴリヤテ:ペリシテの巨人戦士	
ヨアブ:ダビデの将軍	
サウル王とその軍	
ダビデ自身	

結論&適用

可哀想な人々

ダビデの時代、多くの罪のない人たちが苦しみを受けました。ヨナタンとミカルは、彼の父サウルとダビデの間の板挟みになりました(1サム19-20)。祭司アヒメレクと彼の家族のほとんどは、サウルとドエグに殺されました(1サム22)。ナバルの死後、アビガイルはダビデと結婚しましたが(1サム25)、彼女の息子のキルアブは若くして死んだようでした(2サム3:3)。ヨナタンの息子のメフィボシェテは、幼い時に事故で足が不自由になりました(2サム4:4,9章)。ダビデの美しい娘タマルは、彼女の義理の兄に犯され、子を持つことなく死にました(2サム13)。ウリヤは彼の妻バテ・シェバのことで、ダビデに殺されました。また、名前も付けられなかった、バテ・シェバとダビデの最初の子は、死にました(2サム11,12章)。

下のリストにあげられている人々がどのくらい可哀想だったか、1~5までランクをつけましょう(5が最も可哀想)。誰が一番可哀想だったと思いますか？

可哀想な人々	
アビガイル:ダビデの敬虔な妻	
祭司アヒメレクとその家族	
ミカル:サウルの娘、ダビデの妻	
メフィボシェテ:ヨナタンの息子	
タマル:ダビデの娘	
「この子」:バテシェバの最初の息子	
ウリヤ:バテ・シェバの夫	
ウザ:契約の箱に触れた祭司	

結論&適用

助けとなった人々

多くの人々が、ダビデを助きました。表紙の黄色、赤、また桃色で表わされている人々がそうです(全ての人を書ききれません)。アヒトフェルがアブシャロムの側についていた時、フシャイはダビデにとって大きな助けでした。3人の預言者、サムエル(1サム16)、ガド(1サム22:5、2サム24章)、そしてナタン(2サム7、12章、1列王1章)は、それぞれダビデの生涯の大事なところで、彼を助きました。3人の中で、ナタンの事が最も多く書かれています。また表紙には、たくさんの祭司たちの名前がありますが(桃色)、彼らもダビデを助きました(サムエルは、祭司と預言者の両方)。多くの祭司の中で、ツァドクの名前が一番多く出て来ます(2サム15:24-29)。彼はソロモンに油を注ぎましたが、アビヤタルはアドニヤの側につきました(1列王1)。

下のリストにあげられている人々がどのくらい大きな助けだったか、ランクをつけましょう。神様以外には、誰がダビデの一番の助けでしたか？

助けになった人々	
バテ・シェバ：ソロモンの母	
フシャイ：忠実な知恵者	
ガド：ダビデに助言した預言者	
ヨナタン：サウルの息子、ダビデの親友	
ナタン：ダビデに助言した預言者	
サムエル：ダビデに油注いだ預言者	
「この子」：バテシェバの最初の息子	
ツァドク：ダビデの主要な祭司	

結論&適用

私の好きな人物

誰もが、サムエル記の中や聖書の他の所に、好きな人物がいるでしょう。ダビデの生涯に出てくる人物で、ダビデ以外に好きな人物は誰ですか？尊敬する人だけでなく、その人から多くを学べるという事で、悪い人でもいいでしょう。

もし、ダビデを取り巻く人たちの中で男女一人ずつ選んで深く学ぶとしたら、誰を選びますか(ダビデ以外)？女性は少ないので、アビガイルは良い選択かもしれません。バテ・シェバは最も有名でしょうが、アビガイルについての方が多く書かれています。

あまり良く知られてはいないが、興味深い人物もいます。他の人とは違う変わった人を選んでみるのもいいです。

下のリストにあげられている人々の中で、あなたが好きな順にランクをつけましょう。一番好きな人物には5点をあげてください。リストにあげられている他に付け足してもいいです。

私の好きな人物	
アビガイル：ダビデの敬虔な妻	
アブシャロム：ダビデに反抗した息子	
バテ・シェバ：ウリヤの妻	
フシャイ：忠実な知恵者	
ヨアブ：ダビデの将軍	
ヨナタン：サウルの息子、ダビデの親友	
メフィボシェテ：ヨナタンの息子	
ナタン：ダビデに助言した預言者	
サムエル：ダビデに油注いだ預言者	
「この子」：バテシェバの最初の息子	
ウリヤ：バテ・シェバの夫	
その他	

ダビデを取り巻く人々から学ぶ事

危険な人々

ダビデの生涯の中で最も危険な人物は、彼を何度も殺そうとしたサウルではありません。またアブシャロムでもありません。彼もダビデに反抗して、ほとんど成功したほど危険な存在でしたが、ある人々は、ダビデの生涯で一番危険な人物はバテ・シェバだったと言います。しかし神様は、バテ・シェバとウリヤに対する罪の事でダビデを責めました。バテ・シェバももちろん悪かったのですが、ナタンも彼女を責めませんでした(2サム12)。一番危険な人物は、ダビデ自身でした。なぜなら彼の罪が、2サム12章から続く問題の根源になったからです。自分自身に気をつけなければならない、という事が、ここから私たちが学ぶべき事です(1コリ10:12)。

可哀想な人々

私たちは、当然にタマルやウリヤなどを可哀想と思います。また、泣く者と共に泣くようにと聖書は私たちに命じています(ローマ12:15)。しかし、過去の死んだ人に対して可哀想に思う事は、あまり意味がないかもしれません。最近亡くなった友人や愛する者のために悲しむ事は、もちろん当然の事です。それを長く何年も続けることは、自己憐憫のような罪にもつながり、自分自身にもまた回りの者にも良くない事です。主のために積極的に働く事を妨げることにもなります。ダビデは、ヨナタンとサウルのために嘆きましたが(2サム1)、ずっと長くではありませんでした。タマルやウリヤなどについて学んだ後、私たちは神様のために前進するように決心しましょう。

助けとなった人々

ダビデの生涯で、誰が一番助けとなったかを判断するのは難しいです。フシャイ、ガド、ヨナタン、ナタン、ツアドクは最有力候補でしょう。1つの事は、ダビデの生涯の終わりにそこにおいて(1列王1)、助けた人たちを考える事です。その人たちは、ソロモンをダビデの後継者として立てることに関わりました。預言者ナタン、祭司ツアドク、そして軍隊のリーダーの一人であるベナヤです(1列王1:32-34)。ヨアブはいませんでした。しかし、バテ・シェバはそこにおいて(1列王1:28-31)、過去に罪はありましたが、神に用いられました。神様はしばしば恵みとあわれみをもって、私たちの期待や想像以上に、思いがけない方法、またずっと素晴らしい方法で、私たちを用いて下さいます。

私の好きな人物

アビガイル(1サム25)は、ダビデの生涯においてはそれほど大きな役割は果たしていませんが、学ぶ対象としては最も人気のある女性でしょう。サウル王は人気はありませんが、ダビデの性格形成において大きな影響を与えました。ですから、彼の事を学ぶのは、ヨナタンの事を学ぶよりもずっと大事かもしれません。ツアドクや他の祭司たちは良く知られていませんが、彼らも大事な役割を担いました。もっと学ぶべきでしょう。ナタンも、多くの人に好かれているでしょう。しかし、ダビデの生涯で最も大事な存在は、もちろん神様ご自身です。いろいろな人物の事を通して、私たちは神様について多く学ぶことができます。